

一般洋風便器

注意

- この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。
- 施工後は必ず試運転を行ってください。
- お客様に必ず本書をお渡しください。お渡しするときは、使用方法をご説明ください。

安全のために守ってください！

便器を安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。施工前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

用語の説明

警告・・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。

注意・・・ 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

施工前の注意

- C-P17P は、木造壁とコンクリート壁への取付けが可能な洋風便器です。設置条件をご確認の上、確実に便器を取り付けてご使用ください。



警告

便器を取り付ける壁は、十分に強度がないと、使用中に便器が脱落する恐れがあります。

- 木造壁の場合、補強材がきちんと設置されていることを確認してください。
- コンクリート壁の場合 CF-23C (別手配) の壁パネル仕上げ面からの出、間隔が正しいことを確認してください。
- CF-25C (別手配) もしくは CF-23C (別手配) にぐらつきがないことを確認してください。
- 壁パネルが指示通りに正しく開口されていることを確認してください。

※ 無理に取り付けると便器が転倒し、ケガをする恐れがあります。

指示実行

注意

陶器は割れものです。

- 施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。
- 施工後に施工段階での破損がないことを確かめてください。

※ 破損部でケガをしたり、漏水により室内浸水の原因になります。

他社のフランジや横引排水継ぎ手に取り付けしないでください。

※ 漏水の原因になります。

止水栓の調節と施工後の漏水点検を必ず行ってください。

※ 漏水し、室内浸水の原因になります。

お客様にお渡りするまでに凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。

※ 凍結破損で漏水し、室内浸水の原因になります。

指示実行

部品の確認 (梱包内容を確認してください。)

便器

化粧キャップ

※フランジは同梱しておりません。配水管の種類に応じて別途手配してください。

完成図

木造壁の場合

取付強度を保つため、下地に 30mm 以上の JAS 規格合板相当をご使用ください。補強木は構造体と固定を行ってください。

単位：mm

コンクリート壁の場合

取付強度を保つため、壁厚が 80～140mm あることを確認してください。

単位：mm

施工方法

1. 給排水の位置決め、取出し

完成図に従って給水管・排水管を取り出してください。

注意 1 参照

【開口位置と木造壁の下地補強条件】

CF-25C 使用時：30mm 以上の JAS 規格合板相当の下地補強 (必須)

壁仕上げ面

30mm 以上

給水管 (25A 以上)

120

200

取付穴 (CF-23C: φ 32)

下穴 (CF-25C: φ 6)

排水管 75LP, VP75, VU75

650

270

170

注意 1

- 器具取付け前に給水管・排水管内に異物が混入しないようにしてください。
- 給水管にはプラグ、排水管にはビニール袋などでカバーしてください。

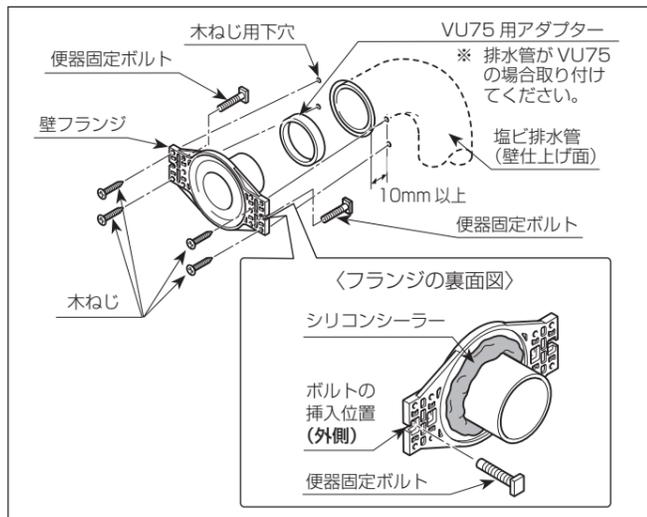
施 工 方 法

2. 壁フランジ（別手配）の取付け

《樹脂製フランジ（塩ビ管専用）の場合》

〈フランジは VU75、VP75 の場合 CF-17AWP を使用〉

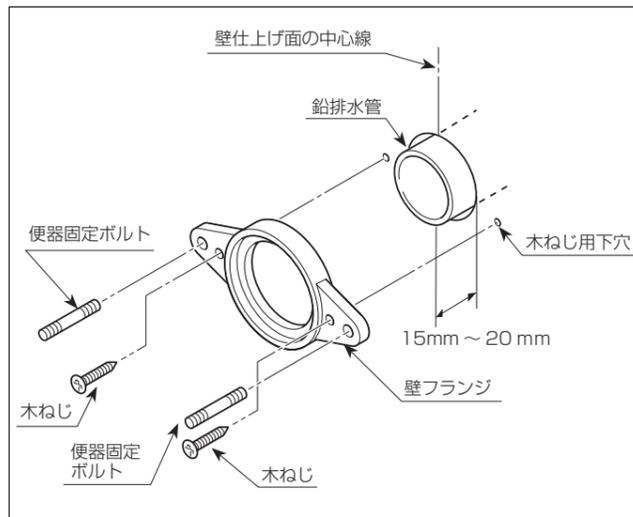
- (1) 塩ビ排水管を壁仕上げ面と同一面上になる位置で切断します。 **注意 2 参照**
- (2) 中心線を位置合わせして、φ 3、深さ 45mm の下穴をあけます。 **注意 3 参照**
- (3) フランジを塩ビ排水管に仮挿入し、ガタの有無を確認してください。 **注意 4 参照**
- (4) フランジ裏側の凹み部（外側）に便器固定ボルトを裏側から通した状態で、フランジと排水管の両方に塩ビ用接着剤を塗布し、フランジを塩ビ排水管側に確実に接着します。 **注意 5 参照**
- (5) 壁フランジを木ねじ（4ヶ所）で固定します。 **注意 6 参照**



《金属製フランジ（鉛管専用）の場合》

〈フランジは 75LP の場合 CF-23AW を使用〉

- (1) 排水管を、壁仕上げ面より外側に 15～20mm 分残して切断します。 **注意 3 参照**
- (2) 中心線を位置合わせして固定穴位置に φ 3、深さ 45mm の下穴をあけます。 **注意 3 参照**
- (3) 壁フランジを木ねじ（2ヶ所）で固定します。 **注意 7 参照**
- (4) 排水管をフランジの内面の形に沿って、亀裂、破損を起こさないようにツバ広げします。

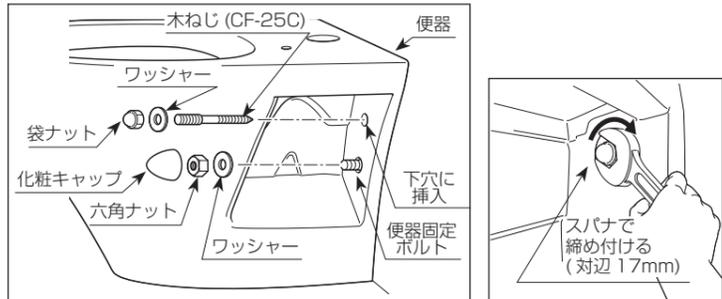


3. 便器の取付け

《木造壁の場合》

便器の排水口にプチルガasketを挿入した状態で、下図のように木ねじ（CF-25C、別手配）で便器と壁仕上げ面を、便器固定ボルトで便器とフランジを固定します。

注意 8 参照

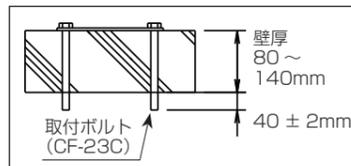


※金属製フランジの場合、化粧キャップは使用しません。フランジに同梱されている袋ナットをご使用ください。

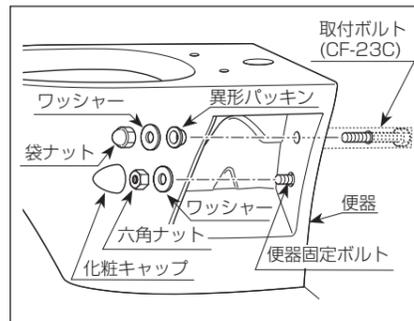
注意 9 参照

《コンクリート壁の場合》

- (1) 取付ボルト（CF-23C、別手配）をコンクリートにあけた穴に通し、ボルトの先端が壁仕上げ面から 40 ± 2mm 出るように調節してください。



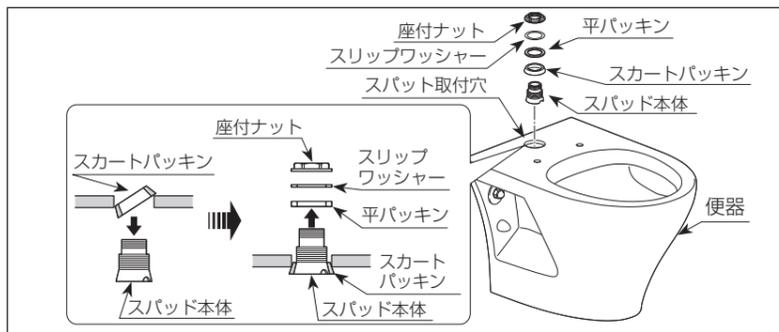
- (2) 便器が正規の位置に取り付くことを確認した後、便器の排水口周辺にプチルガasketを巻きつけて、右図のように取付ボルト（CF-23C）で便器と壁仕上げ面を、便器固定ボルトで便器とフランジを固定します。



注意 9 参照

4. スパッドの取付け

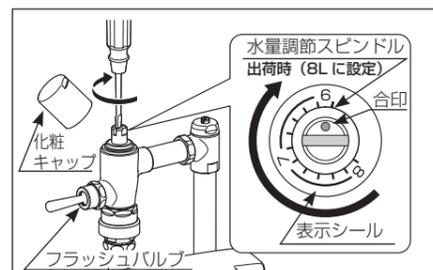
- (1) 別途手配の径違スパッド（CF-103BB）のスパッド本体を便器のスパッド取付穴に入れ、スカートパッキンをスパッド本体にかぶせます。
- (2) スカートパッキンを挟み込みながらスパッド本体を持ち上げ、平パッキン、スリップワッシャー、座付ナットの順に入れ、締め付けます。



5. フラッシュバルブの取付け・洗浄水量の調整

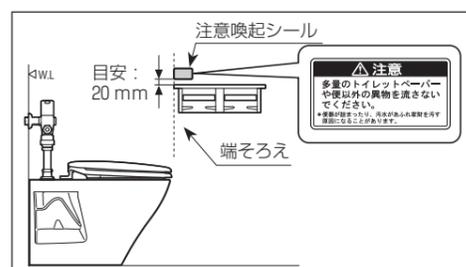
- (1) 給水圧力（流動圧）を測定し、0.07～0.75MPa の範囲内であることを確認してください。
- (2) フラッシュバルブに同梱されている施工説明書にしたがって、フラッシュバルブを取り付けます。
- (3) フラッシュバルブの化粧キャップを外し、表示シールを見ながら水量調節スピンドルをマイナスドライバーで回し、合印を 8L → 6L に設定します。（出荷時は合印が 8L に設定されています。）

※ 使用場所の水圧が 0.07～0.1MPa のときは水量を 8L に設定してください。



6. 施工後の確認

- (1) フラッシュバルブを操作して便器鉢内を洗浄し、各接続部に漏水がなく、鉢内洗浄が良好であることを確認します。
※ 排水接続部の漏水点検は、数回繰り返して水を流さないと確認が困難な場合があります。
- (2) 鉢内洗浄の良否は、長さ 760mm のトイレトーパーペーパーを丸めたものを 7 個入れ、1 回の操作で排出できることを確認します。
- (3) 施工説明書に同梱の注意喚起シールを紙巻器上の壁面に張りませす。



注意 2

- 図のように、継手（エルボ）の曲がり部を壁仕上げ面から 10mm 以上控えるようにしてください。
※ 10mm 以下になると木ねじが曲がり部に干渉し、施工不良となる恐れがあります。

注意 3

- コンクリート壁の場合は、AY ボルト（AY-2）を別途手配して、φ 7.5、深さ 50mm の下穴をあらかじめあけてください。
- 穴は床面と平行にしてください。

注意 4

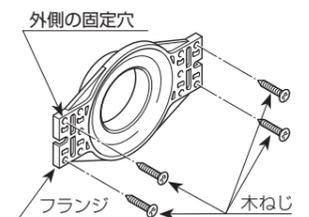
- VU 管の場合、あらかじめ塩ビ用接着剤でフランジに VU75 用アダプターを根元まで確実に接着してください。
- フランジと塩ビ排水管との間にガタがある場合には、(4) の作業前にフランジ根元に φ 10 の太さで全周にシリコンシーラーを塗布してください。

注意 5

- 便器固定ボルトをフランジの裏側から通した後に接着してください。接着後には取付けができません。

注意 6

- 木ねじはフランジの外側の固定穴に取り付けてください。十分な固定強度が得られず、フランジが破損する恐れがあります。



注意 7

- 十分にツバ広げできない場合は、シールが不完全となり漏水の恐れがあります。その場合、フランジと鉛管のツバ部をハンダ付けしてください。

注意 8

- 事前に φ 6 の下穴をあけてから木ねじ（CF-25C）を固定してください。

注意 9

- 便器を固定する際には、便器固定ボルトと取付ボルト（CF-23C）もしくは木ねじ（CF-25C）を交互に締め付け、ガスケットが均等に密着するように固定してください。